



ことばのシャワーを浴びせるとき、浴びるとき…

前号で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目について触れました。どれも大切にバランスよく育っていくことが理想となります。

今号では、特に「言葉による伝え合い」について触れたいと思います。

■ことばのシャワーを浴びせるとき

18年前のことです。赤ちゃんを抱っこし、語りかけるお母さんがいました。「○○ちゃん、おはよう」「○○ちゃん、まぶしいね」「○○ちゃん、どうしたの？」…。もちろん、赤ちゃんからことばは返ってきません。我が子の表情や動作に合わせ、あたたかいことばのシャワーは毎日のように浴びせられました。



その後、その子は他人の心の痛みを分かってあげられる優しい大人になりました。お母さんは、優しいことばのシャワーを浴びせることで、人を愛する心を注ぎ込んでいました。

一方、ある子育て支援センターに行ったとき、同じように赤ちゃんを抱っこするお母さんがいました。赤ちゃんはお母さんの顔を見てしきりに「ブー、ブー」と言葉を発しています。しかし、お母さんの目はスマホの画面に注がれていました。そのお母さんは、ことばを一言も発することなく、施設を後にしました。この子はどんな風に育つのだろう？一抹の不安を抱き、私もその場を立ち去りました…

■ことばのシャワーを浴びるとき

●聴くときに説教をしない、子どものふさぎこんでいる気持ちを受け止める

テレビ番組にイタリアの小さな村を扱ったものがあり、(略)お父さんと子どもがやりとりをする、こんなシーンがありました。思春期位の子どもの帰ってくるとスパゲッティをゆでている父親が「今日はどうだった？」と尋ねるのです。息子は「今日は最低だったよ」と言うのですが、お父さんは「そうか、ついてなかったな。まあ、そこに座ってちょっと待ってな、もうすぐお昼ができるからな」と言って、(略)子どもの話を黙って聞くのです。そのお父さんは「何があった？」と聴き出そうとせず、事柄にこだわらないで子どもの気持ちに寄り添っている。(略)



イタリアでも都市部だったらこんなふうにはいかないのかもしれませんが、しかし、どこであろうと、子どもにはそう接してほしいと私は思っています。(略)「それは大変だね」と受け止めて共感してもらえる安心感があると、話すことができる。子どもが辛い状況にあるとき「これを言ったらまた叱られるかもしれないから言うのをやめよう」と胸にとどめるような関係をつくらないようにしていただければと思います。 【子育て家族における人間関係づくり】平木典子 (東京福祉大学大学院教授)

いずれも、「言葉の伝え合い」になっていないように思えますが、互いに伝え合っていると感じられるのは、私だけでしょうか？

小中学校は春休みに入っています。保護者の方には、ぜひとも、お子さんに対してことばのシャワーを浴びせたり、お子さんからシャワーを浴びたりしてみてください。

今年度、最終号となりました。ありがとうございました。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤雅史
TEL 23-3330